

南アフリカ為替週報

2021年7月29日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去5週間の動き＞

(6月24日～7月28日)

USD/ZAR: 14.0200～14.9900

ZAR/JPY: 7.35～7.88 (参照値)

過去5週間の南ア・ランド相場は、下落。6月末から7月初にかけては方向感に乏しい上下動を続けたが、7月13日に前後して明確に下落。その後一旦は小反発を見せたものの、現在まで軟調推移を続けている。ランド売りの直接のきっかけは、クワズール・ナタール州を中心に広がった暴動で、その予兆として南ア憲法裁判所によるズマ前大統領有罪判決(6月29日)、ズマ前大統領収監(7月7日)があった。当初は前大統領支持派による「抗議」という名目で始まった暴動だが、貧富の差の拡大、人種間の対立、コロナ禍に対する不安などを要因に武力衝突、略奪などに広がった。ラマポーザ大統領は、16日までに「反乱の試みは失敗した」と事態の収拾を宣言したものの、300人を超える死者を出した上、店舗など商業施設の損壊などは南ア経済に少なからぬ傷跡を残したものと考えられた。暴動の陰で注目は薄れたものの、南ア準備銀金融政策委員会は、7月22日、全会一致で政策金利据え置きを決定した。21日に発表された南ア6月CPIは、市場予想を僅かに上振れていたものの、金利据え置きは予想通りの結果で、ランドが材料視した様子は読み取れなかった。

＜過去5週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/30	6:00	民間部門信用(前年比)	5月	-0.42%	-0.95%	-1.76%
	12:00	貿易収支(ZAR)	5月	+54.6bn	+49.6bn	+51.3bnr
	12:00	財政収支(ZAR)	5月	-5.4bn	-6.1bn	-80.4bn
7/1	11:17	自動車販売台数(前年比)	6月	+20.2%	+28.1%	+197.8%
7/7	6:00	総外貨準備高(USD)	6月	54.47bn	53.30bn	54.14bn
7/12	11:00	製造業生産(前年比)	5月	+35.3%	+46.8%	+87.9%
7/13	9:30	鉱業生産(前年比)	5月	+21.9%	+31.5%	+117.4%r
7/14	11:00	小売売上高(前年比)	5月	+15.8%	+12.3%	+95.7%r
7/21	8:00	CPI(前年比)	6月	+4.9%	+4.8%	+5.2%
7/22	13:11	南ア準備銀政策金利		3.50%	3.50%	3.50%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(7月29日～8月4日)

USD/ZAR: 14.700～15.100

ZAR/JPY: 7.30～7.50

向こう1週間の南ア・ランド相場は、今しばらくの軟調を予想。上述の通り、今般の暴動は、政治的にも、経済的にも無視できない傷跡を残した。10月に予定される地方選で、与党アフリカ民族会議(ANC)が、従来想定されたよりも苦戦を強いられる(注1)のは避けられそうにない。また、経済的損失は名目GDP比0.3%程度(注2)と公には試算されているようだが、市場の一部には同1%にも及ぶ被害を見込む向きもある。一方で、しかし、ズマ大統領時代の負の遺産からきっぱり決別するためのコストとしては、決して高くはないとの評価もできるのではないか。ズマ大統領収監(注3)に加え、7月9日には、停職処分を不服とするANCマガシューレ幹事長の訴えを南ハウテン州高等裁判所が棄却し、ズマ政権時代に南アを「食い物」にした守旧派勢力はほぼ一掃された。暴動の広がりが、ズマ大統領の地盤であるクワズール・ナタール州の他ハウテン州の一部にとどまったことは、見方によっては「安い代償」だったと受け止めることもできよう。また、ラマポーザ大統領が、今般の混乱を安全保障・治安関係閣僚などの刷新(内閣改造)の契機とし、その政治的基盤強化に利用するとの見方も、前向きに評価できる。今後は、まず、決着が近いと見込まれる公務員賃金交渉(注4)、南ア電力公社(Eskom)分社化、(携帯電話の?)周波数帯入れなどの実務の進捗を注意深く見守る必要はあろう。しかし、今般の暴動が、そうした実務(改革)の進捗や、来年予定されるANC党首選におけるラマポーザ大統領再選の阻害要因になるとの声は全くと云える程聞こえてこない(注5)。

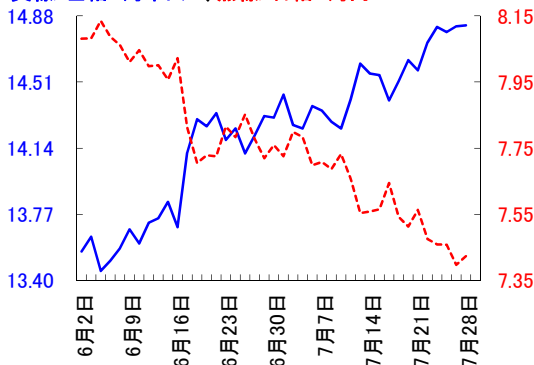
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
7/29	6:00	民間部門信用(前年比)	6月		+0.40%	-0.42%
7/30	12:00	貿易収支(ZAR)	6月		+54.0bn	+54.6bn
	12:00	財政収支(ZAR)	6月		+65.0bn	-5.4bn
		自動車販売台数(前年比)	7月			+20.2%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

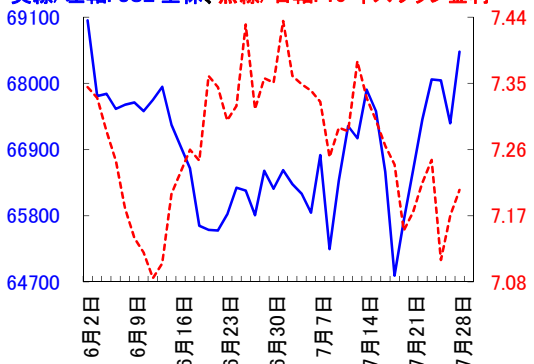
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10年スワップ)	7月28日	7.205%
株価指数(JSE 全株)	7月28日	68525.54
成長率(GDP/前年比)	Q1	-3.2%
経常収支(ZAR)	Q1	+267bn
失業率	Q1	32.6%
消費者物価(前年比)	5月	+5.2%
小売売上高(前年比)	4月	+95.8%
製造業生産(前年比)	4月	+87.9%
鉱業生産(前年比)	4月	+116.5%
貿易収支(ZAR)	4月	+51.2bn
金価格(ロンドン 17:00)	7月28日	1801.04

(注1) とりわけクワズール・ナタール州、ハウテン州などにおいて

(注2) 150億ランド

(注3) 懲役15ヵ月の実刑判決

(注4) 賃上げは名目+1.5%程度に抑制されるものと見込まれている

(注5) むしろ反改革派勢力の一掃を前向きに評価する見方の方が支配的

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。